

# 教科「公民」

## 科目「倫理」

(2年次文型、地理Bとの選択)

単位数	2単位
担当者	本間 由紀 他
教科書	新 倫理 新訂版(清水書院)
副教材等	新 倫理 ワークノート(清水書院) アプローチ倫理資料PLUS(とうほう) テオリア 最新 倫理資料集(第一学習社)

### 【1】科目の目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念をもって、古今東西の思想家を手がかりとしながら、青年期に生きる高校生が自己の在り方生き方、社会の在り方について主体的に考えることができる。

### 【2】科目の内容と進め方

- 1学期：1年次の「現代社会」の倫理分野の学習成果をふまえて、青年期の課題と自己形成、古代ギリシア思想、世界の宗教、中国の思想を扱う。
- 2学期：古代日本人の思想から現代日本の思想まで扱う。
- 3学期：西洋近現代思想、現代社会における倫理的諸課題を扱う。

### 【3】学習形態

教室で授業を行う。一斉、グループ、ペア、個人など、様々な学習形態で学ぶ。

### 【4】学習上の留意点

「倫理」では、思想家の思想を手がかりに人間の在り方生き方、社会の在り方について考察していく。授業で学んだことを活用して、自己の在り方生き方や、現代社会の在り方と関わらせながら学習していくことが最も大切である。予習や復習では、教科書やワークノートを使って思想内容を確認する。

### 【5】評価の方法と評価の観点

#### ① 評価の観点

- 1 関心・意欲・態度：思想家の思想を手がかりに、自己の在り方生き方や、社会の在り方について主体的に考察しようとしたか。
- 2 思考・判断・表現：自己の在り方生き方や、社会の在り方に関する諸課題を見出し、人間の存在や価値などについて広い視野から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できたか。
- 3 資料活用の技能：思想家等の原典資料の読解を通して、哲学的思考ができたか。
- 4 知識・理解：思想家の生きた時代背景、思想家が設定した哲学的課題について理解できたか。

#### ② 評価の方法

- ・ 授業での学習活動の様子、学習活動シート（ふり返りを含む）、演習課題への取り組み状況から、主体的に学習しようとする態度を評価する。
- ・ レポート課題では、授業で扱った思想家を取り上げて、授業で学習したことをふまえて、思想家が設定した課題や解決策について調査・研究する。レポート作成を通して、哲学的な思考力や課題解決能力を身につけることができたかを評価する。
- ・ 定期考査や課題テストから、哲学的な思考力、思想内容の理解、原典資料の読解力等を評価する。

### 【6】その他

なし